

プラネタリウムで「伝える・教える」を学ぶ ～星空解説でゲストに癒しを～

団体名 ● 辰島ゼミナール、プレゼミナール

代表者名 ● 辰島裕美（女子短期大学部 経営実務科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

本稿では、ゼミ活動として学生が取り組んだ、地域の教育研修施設である金沢市キゴ山ふれあい研修センター（以下、センター）での2件の取り組みについて報告する。活動は、2年生が1年半取り組んだプラネタリウムでの星空解説と、1年生も加って参加した家族向けイベントの2件である。

本ゼミのテーマは、「伝える・教える」際に必要な、相手と目的を意識することを、実践から学ぶことである。「星見の日」と「よちよちプラネタリウム」における学生の活躍を紹介する。

活動内容と成果

星見の日は、春から秋まで毎週金曜日の夜にセンターで催されている、市民向けのプラネタリウム星空解説と観望会である。親子連れを中心に、年齢層の幅が広いイベントになっている。

通常、星空解説は1人でドームにアプリで星や星座を映すためのコンソールの操作、ドームの管理、BGMの切替操作、そしてメイントークを1人でこなす。今回は学生の希望で、メンバー4人を2つのペアに分け、2人で星空解説を行った。



写真1：プラネタリウムでの星空解説

解説シナリオは、当日の星空を Web で確認し、主な星の名前や星座からトークのシナリオを創る。この時に、センター側からの要望である、「来訪者がその時間を楽しむことは勿論、後日自宅からでも夜空を見上げて、星が探せるようになること」を、学生が

意識してシナリオを創作した。

さらに、子ども向けのシナリオを作成している時、子どもが想像力を働かせられるように工夫した。あえてイラストや動画を使わず、問いかけや適切な間、BGMにも配慮し、改善を積み上げることができた。センター職員やサポートの星の会のメンバーからも、その改善や上達に称賛の声が上がった。

よちよちプラネタリウムは、乳幼児を連れた親や家族が対象のイベントである。育児で忙しい家族にひと時の癒しの場を提供する目的もある。ゼミ生達は、このことに注目して、プラネタリウムの後に、子どもが楽しめる工作や親子に向けた絵本の読み聞かせなどを企画して実際に担当した。



写真2：よちよちプラネタリウムでのお遊び

参加者のアンケートからは、「絵本の選択がとても良く、優しい声での読み聞かせは、家族で癒された」といったコメントが寄せられていた。

今後の課題、展望

大学から距離があるセンターへ行かなくても星空解説を練習できる環境を順次整え、今後は専門的なスキルを開発できるように、学生が取得できる資格などを調査し活動に取り入れていきたい。

また、大学の周辺地域の人に向けた、大学での観望会なども計画して、地域貢献と学生の活躍の場を増やすことを想定している。